



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：トブルクで新立法機関「代表議会」の初会合を開催

1. 初会合で議長、第1副議長、第2副議長を決定

8月4日、東部トブルクのダール・サラーム・ホテルで、正式な立法機関「代表議会」(Majlis al-Nuwwab)の初会合が開催された。移行期の立法機関であった「国民議会」(al-Majlis al-Watani al-'Am, General National Congress; 以下GNC)は、代表議会の開催とともに任務を終了した。代表議会に選出された188人のうち、158人が出席した(定数は200だが12議席が未選出)。

当初、4日にトリポリでGNCから代表議会への権限委譲式典が行われる予定であったが、当日に中止された。代表議会の初会合において、GNC第1副議長であったイッズディーン・アワミーは演説を行ない、初会合開催を祝するとともに、GNCから代表議会への迅速な権限委譲が重要であると述べた。また他の議員の演説では、リビアを破綻国家にしないとの決意が叫ばれた。

初会合では、以下のとおり議長、第1副議長、第2副議長が選出された。

- ・議長                   アギーラ (アキーラ)・サーリフ・イーサー：東部グバ出身、判事
- ・第1副議長           ムハンマド・アリー・シャイーブ：西部ザーウィヤ出身
- ・第2副議長           ハミード・アフマド・アリー・フーマ：南部ティムサ出身

2. 代表議会の正統性を否定する声明

しかし、トリポリでは、機能を終了したGNCの議長アブー・サハメインや、トブルクでの初会合に出席しなかった代表議会議員らが、トブルク会合の違憲性を指摘した。GNCから代表議会への権限委譲式典を行わずに代表議会を開催したことは、然るべき手続きの無視であり、違憲であるとの主張である。ムスリム同胞団を母体とする正義建設党も、同様の主張を行なった。

考察

暫定立法府の国民評議会 (NTC、2011年9月～2012年8月)、国民議会 (GNC、2012年8月～2014年8月)を経てようやく正式な立法府が成立したが、発足早々、議員間に分裂が生じた。

トブルク会合の正統性を否定したアブー・サハメイン前GNC議長は、イスラーム主義組織に近い人物とされる。トリポリで民兵組織間の戦闘が激化した際、サハメインは、トリポリ空港を支配し、かつハフタル退役少将の「尊厳作戦」を支持するジントーン系民兵組織を「ならず者」と非難した。ジントーン系民兵組織をトリポリから一掃するため、自身が指揮官である「リビア革命戦士作戦室」や「リビアの盾」といった民兵組織に進軍命令も出した。つまり、サハメインは、トリポリやベンガジでの民兵組織対立にかなり関与し始めているとも解釈できる。

こうした情勢のなかで、サハマインらによってトブルク会合が否定されたことは、民兵組織間の戦闘が政治エリートにまで発展する危険性を予期させるものである。

(金谷研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799